

1 研究主題

幼児理解に基づいた評価の在り方について

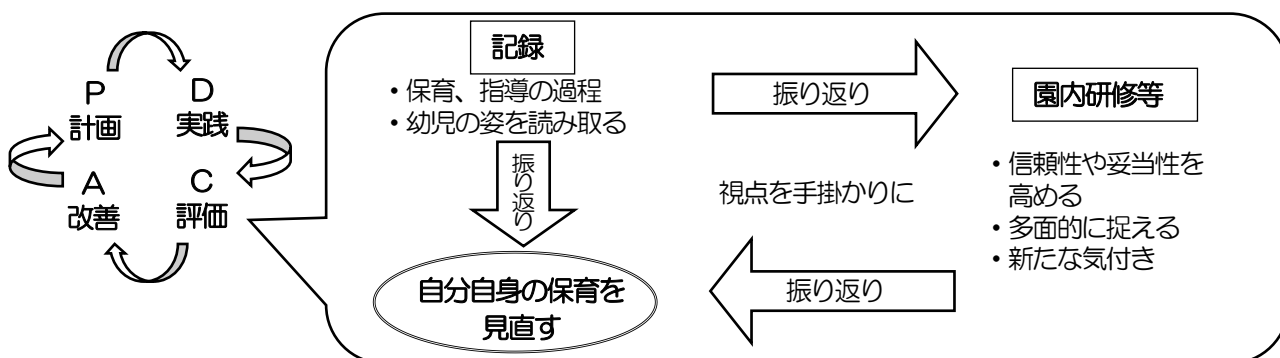
2 研究内容と方法

研究内容

- 適切な評価につながる保育の振り返りや幼児理解について考える。
- 子ども一人一人の育ちにつながる評価の方法を探る。

研究方法

- 日々の保育を振り返り、幼児理解や指導の改善に生かせるように、記録等の取り方や活用の仕方を考える。
- 子ども一人一人のよさや可能性を捉え、幼児理解を進めていき、よりよい保育につながる園内研修等の方法を探る。
- 評価、反省したことを次の保育に生かせるよう指導計画を見直したり、次年度または小学校へ引き継いだりできるような方法を探る。



3 実践事例と考察

(1) 記録を生かした振り返りの工夫

- 週・日案型…毎日、ねらいと評価の観点を書く。観点から子どもの姿と保育者自身の振り返りをし、幼児理解や指導・環境構成の改善などを翌日に生かす。
- 個人記録型…観点から個々の姿を記録し、一人一人の特性や育ちつつある姿を捉える。
- 環境図型…全職員が目にする場所に掲示し付箋に遊びや内容を書いて貼る。職員間で子どもの姿を共通理解し、環境構成や具体的な援助を考え、印刷し記録として活用する。

(2) 評価の妥当性や信頼性を高める園内研修

<視点をもったカンファレンス>

- ① 子どもの姿を5つの視点で読み取る。
- ② 心に残った遊びの場面での保育者の関わりを振り返る。

◇読み取りの5つの視点◇

- A 幼児の姿を肯定的に捉える
- B 活動の意味を探る
- C 発達する姿を捉える
- D 友達との関係・個と集団の関係
- E 過去の姿や経験

(3) 幼児の発達の姿を指導計画に位置付ける

<幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の観点から発達を捉える>

4 まとめと課題

- 子どもの内面理解をしていくには、日々の記録が重要となってくる。記録の取り方や活用の創意工夫をすることで、一人一人のよさや可能性などの把握につながった。また、読み取る時に視点を持ち、見直すことが、具体的な指導につながると分かった。
- カンファレンスを通して、見過ごしていたことやいろいろな見方、考え方に気付くことで、保育の視野が広がった。確かな幼児理解を積み重ねていくことが、子どもの育ちの読み取りや、ねらいの妥当性や信頼性につながっていくと思う。
- その時には気付かなかった保育者の関わりを日誌に書く中で保育者自身が振り返ったり、カンファレンスを通して振り返ったりすることで、改めて気付くことや新たな援助の方法を探り、関わりを見直すことにつながった。
- 記録や評価の観点から振り返ったことを、短期計画、長期計画に反映し、子どもの発達を支えていくとともに、次年度や小学校へ引き継げるような工夫をしていきたい。

